

5 第3次アクションプラン(2023-2027)の重点と策定方針

本アクションプランの策定方針を定めるため、市内全域の事業者、行政等の若手によるワーキング部会を設置しました。3回のワークショップを通して、持続可能な観光の姿を探り、

- 1 八女インターに近い市の中心部から県境に近い周辺部まで、事業者が収益を上げることができる持続的な観光を可能にする
- 2 そのためには地域資源を見直し、SDGsの考え方を取り入れた売れる観光商品づくりが重要
- 3 第2次アクションプランを検証し、継続すべき取り組みは本アクションプランに組み込む
- 4 観光地域づくり法人(DMO)である(一財)FM 八女を中心に、コーディネートの一環を強化する

といった策定方針を立てました。

ワーキング部会での情報共有、ワークショップ成果は次の通りです。

市の人口ビジョンの共有

■人口は2030年までに15%程度減少。年間900人減少ペース。
地域消費は毎年10億8千万の減少。(観光庁試算により一人当たり120万円で計算)

■市の基本目標(第2期八女市まち・ひと・しごと創生総合戦略より)

- 1 八女の資源を活かして経済を活性化し、安定した雇用を創出する
- 2 訪れ・住み・交流する新しいひとの流れをつくる
- 3 若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる
- 4 地域の特性を踏まえて魅力を活かし、安心して暮らせる都市をつくる

第2次アクションプランの進捗確認

成果

- ◆ 日本版 DMO 候補法人・本法人登録
- ◆ 体験プログラムの通年実施の商品化
- ◆ 観光協会統合「八女フィルムコミッション事業開始」

コロナ禍の影響、今後の観光ニーズに関する情報

- 旅の安心安全へのニーズの高まり
- 少人数、小グループ化
- 国内旅行への意欲が回復
- 行先は「これまで行ったことのない地域」が全世代で1位となり、既存の観光資源離れがみられる

ワークショップ成果

【優先して取り組むこと】 ()は意見数

	1班 【矢部・黒木】	2班 【上陽・星野】	3班 【八女・立花】
住民の受入れ意識醸成	0	1	1
事業者の利益確保	3	4	4
来訪者の満足度向上	1	0	1
持続可能な資源活用	3	1	1
その他意見	1	1	0

以上の経過をたどり、本アクションプランの重点と施策策定の方針を次の通り決めました。

第3次アクションプランの重点

売れる観光商品づくりによる周辺部への集客

アクションプラン策定方針

観光客受け入れを持続可能とする観光商品であること

① 地域の提供体制

商品・サービスを提供する人材や仕組みが持続可能であること

② 経済効果

事業者が適正な利益を確保し、経済的に持続可能であること

③ 品質管理

時代のニーズ、観光客のニーズに対応するPDCAが持続できること

また、第5次八女市総合計画に示されたSDGsの考え方を踏まえ、持続可能な観光の姿を目指すことも合わせてワーキング部会の共通認識としました。

SDGs:Sustainable Development Goals とは、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。

17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」ことを誓っています。

SDGs は発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。

(外務省ホームページより転載)



持続可能な観光はサステナブルツーリズムとも言われ、観光地の本来の姿を持続的に保つことができるように、観光地の開発やサービスのあり方を見定め旅行の設定を行うこととされています。団体旅行に代表されるマスツーリズムの進展により、環境汚染や自然破壊などの現象が見られるようになった反省から、地域の文化や自然環境に配慮し、本物を体験し味わうことなどを通し、観光地に住む住民と観光客とが相互に潤うことが重要との考えが生まれてきました。